

# 新幹線・駅周辺整備特別委員会行政視察報告

1月27日から28日にかけて、委員8名、市当局2名、事務局随員1名で、兵庫県豊岡市、姫路市を訪問し、JR豊岡駅、JR城崎温泉駅及び姫路駅（山陽新幹線・JR）の駅舎及び駅周辺の整備状況等について視察してまいりました。

## ■兵庫県豊岡市

### 【JR豊岡駅及びJR城崎温泉駅整備等について】

豊岡市は兵庫県の北部に位置し、平成17年4月1日に旧豊岡市及びその周辺5町の合併により誕生した、観光産業及びかばんの製造が盛んな都市です。

その豊岡市にはJR山陰本線が縦断し、豊岡駅や城崎温泉駅などが設置されています。

市の中心駅として位置付けられているJR豊岡駅は、通勤・通学及び来訪者で賑わう交通の要所であるにもかかわらず、駅前広場の交通結節点機能が確保されていなかったこと、また、ユニバーサルデザインの観点などから、平成20年度から4年をかけた駅前広場整備を実施しました。

また、これに伴い、駅舎の支障移転工事も同時に行われ、駅利用者の利便性が大きく向上したとのことでした。

JR城崎温泉駅は、市町の合併協議が始まった際、「城崎温泉」ブランドが埋没するとの懸念から、市町合併を前提に、従来の「城崎駅」から「城崎温泉駅」に改称すべきとの思いからJR西日本と協議し、官民挙げて要望することで、平成17年3月1日に実現したとのことでした。

当初は約1.2億円の費用が見込まれたものの、JR山陰本線と利用者が多いため、ダイヤ改正のタイミング、当時の町長の熱意などにより、結果的には約4,600万円の費用負担で収まったとのことでした。

なお、平成29年度のトワイライトエクスプレスの運行にあわせ、前年度には市とJR西日本が共同で駅舎を



兵庫県豊岡市

改修し、温泉の街並みと調和した外観としたほか、大型キャリアバック対応のコインロッカーを設置するなど、内外の観光客の利便性向上を図ったとのことでした。

## ■兵庫県姫路市

### 【姫路駅（山陽新幹線・JR）周辺整備等について】

播磨臨海工業地域の中心的役割を担う姫路市は人口約53万人の中核都市で、関西と中国、九州地方を結ぶ山陽新幹線が横断しています。

姫路駅は、在来線3路線と新幹線が乗り入れ、1日あたり約10万人が利用するターミナルであり、戦時中の姫路空襲の中で戦火を逃れた市のシンボル「姫路城」を生かした都市整備が今も進められています。

姫路城と姫路駅は直線道路で結ばれ、北駅前広場からは姫路城がはっきりと見えるよう配置されており、昭和63年度からの駅周辺地区総合整備事業「キャストイ21」として、平成27年4月にはバスやタクシーなどに限定したトランジットモールを一部区間で導入し、

それまでの交通渋滞の大幅低減化が実現したとのことでした。

また、北駅前広場ではゾーニングを

行い、整備方針の明確化及び官民開発の区分を図ったうえで、天然芝と地下施設



北駅前広場（姫路駅）

を生かした「にぎわい交流広場」を整備したほか、令和3年には官民協働による文化コンベンションセンターが誕生する予定とのことでした。

なお、平成26年度からは南駅前広場整備事業に着手し、アンケートやパブリックコメントを経て、平成30年度末に公共交通と一般車の分離、一般車乗降スペースの増設、横断歩道の解消等を含む整備が完了していました。

## ■視察を終えて

今回視察した各駅舎及びその周辺、また視察先でお聞きした内容を参考に、加賀温泉駅舎及びその周辺地域の魅力・利便性の向上に役立てていきたいと思っております。